

JENESYS 日本・インドネシア若手ジャーナリスト交流（招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的】インドネシアのジャーナリストが来日し、ジャーナリズム関係各所の視察や交流を通じて両国の相違点の他、地方訪問を通じて平和維持の重要性を学びます。また、地域活性化の取り組みも視察するなど、幅広く日本への理解を促進することで、日本についての対外発信の強化に寄与することを目的に実施しました。

【参加者】インドネシアのジャーナリスト 計 7 名

【訪問地】

- プレプログラム（オンライン事前学習）：千葉県 7 名
- 招へいプログラム：東京都 7 名、長崎県 7 名

【日程】

このプログラムは、以下のプログラムと一部合同で実施しました。

- ・ JENESYS2023 日本・インドネシア高校生等交流 ～日本の文化・技術体験～（招へい）
- ・ JENESYS 日本・インドネシア平和構築交流（大学生招へい）
- ・ JENESYS 日本・インドネシア外交官・地方行政官交流 II（招へい）

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1 月 15 日（月曜日） 【出発前オリエンテーション】

挨拶：在インドネシア日本国大使館 二等書記官 石田 智彦 氏

【日本理解講義】「日本の魅力」

講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「日本理解講義」「ホームビジット体験」「広島ピースツアー」「日本語」「日本 ASEAN50 年の歩み」「日本と国連」

■ 招へいプログラム：

1 月 22 日（月曜日） 成田国際空港より入国

1 月 23 日（火曜日） 【オリエンテーション】

【学生交流】オンライン派遣プログラム「JENESYS2023 日本・インドネシア生活文化交流」参加の日本人学生

1 月 24 日（水曜日） 【テーマ関連視察】日本テレビ放送網株式会社 報道局

【テーマ関連講義】「世界をつなぐメディア」

講師：Bee Media 合同会社 代表社員 科学ジャーナリスト 倉澤 治雄 氏

1 月 25 日（木曜日） 東京都から長崎県へ移動

【表敬訪問】長崎県庁 文化観光国際部 国際課 課長 坂口 育裕 氏

【講義】「長崎県概要講義」

長崎県庁 文化観光国際部 国際課 国際交流担当 主事 野崎 久美子 氏

1月26日（金曜日） 【視察・講話】長崎原爆資料館・平和公園、被爆体験講話

【視察】出島

【ホストファミリー対面式】諫早市

1月27日（土曜日） 【ホームステイ】

1月28日（日曜日） 【ホームステイ】日本文化体験含む

【ホストファミリー歓送会】

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

1月29日（月曜日） 長崎県から東京都へ移動

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

1月30日（火曜日） 成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
1月15日【出発前オリエンテーション】挨拶の様子	1月15日【日本理解講義】「日本の魅力」

招へいプログラム

	
1月23日【オリエンテーション】	1月23日【学生交流】日本人大学生との交流

	
1月24日【テーマ関連視察】 日本テレビ放送網株式会社 報道局	1月24日【テーマ関連講義】 「世界をつなぐメディア」
	
1月25日【表敬訪問】長崎県庁	1月26日【視察・講話】 長崎原爆資料館・平和公園、被爆体験講話
	
1月28日【ホストファミリー歓送会】	1月29日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人（報道室記者）

プログラムには、都市や地方の歴史、日本のメディア、政治、社会の現状、長崎での原爆投下による被害、諫早市に暮らす家族の日常について学ぶ機会が網羅されており、今後、報道するに値する大変有益な内容でした。

◆ 社会人（報道記者）

私は日本が大好きです。日本文化には興味を掻き立てられます。ホストファミリーと一緒に過ごし、日本の作法や食文化等を学んだり、日本語で会話したりするなど、多くのことを経験しました。至福の時を過ごせました。

◆ 社会人（報道記者）

日本のジャーナリズムについて多くの知見が得られました。日本人の読み書き能力、それに伴う応用力は、新聞や本などの活字を読む習慣に裏付けられているということを知りました。日本のセクシャルマイノリティーの権利保護、子どもの養育方法は、インドネシアの手本になるものであり、今後の参考になりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

大村公園に行きましたが、日本庭園、城跡、神社、ラーメン屋など、見所が多く、日本の文化を体験してもらいました。また、最終日の集合までに数時間余裕があったので、家にある浴衣を試着してもらうことができました。歓送会では、みんなが涙ながらに今回の経験を語っている事で、短い間でしたが彼らにとってホームステイは素晴らしい経験だと感じました。中学生の子どもに、英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする意識が芽生えており、成長を感じました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

Saya berkesempatan untuk mengunjungi Akihabara Tokyo, Jepang, Selasa (23/1/2024). Selama satu hari kami diberikan sejumlah kegiatan seru lewat Program JENESYS 2024, Indonesia-Japan Young Journalist Exchange. Usai turun dari pesawat JAL, kami melakukan orientasi umum di AP Akihabara dimana saling berkenalan dan diberikan arahan terkait teknis program oleh Takagi Hitoshi, Koordinator JICE yang menghandle program tersebut. Kemudian saat menunjukan waktu istirahat, kami bersama rombongan berjalan kaki untuk makan siang di Sushi Tofuro Akihabara. Saya melihat sejuk dan asri nya Negara Sakura secara dekat, dan hampir tidak ada tempat sampah di sekitar jalan. Sambil melihat jalanan trotoar, ternyata Jepang memiliki lampu lalu lintas yang cukup banyak sehingga tidak ada kemacetan. Lalu kembali sebentar ke AP Akihabara untuk berkenalan dengan mahasiswa Jepang dari Senshu University. Yuya san dan sharing terkait dengan kebudayaan Jepang seperti sadō (茶道) maupun Shodō (書道). Kemudian pada sore hari, kami diajak untuk melihat Menara Tokyo atau dikenal Tokyo Tower di 4 Chome-2-8 Shibakoen, Minato City, Tokyo. Tak selang beberapa lama tiba-tiba Menara Tokyo sorkak dipenuhi dengan Kerlap Kerlip lampu yang indah. Lalu diakhiri dengan makan malam di salah satu restoran Jepang. #jenesys_asean 	
2024 年 1 月 24 日（Facebook） 1 月 23 日より JENESYS2024 日本・インドネシア若手ジャーナリスト交流プログラムに参加し、思わず感嘆の声をあげてしまうような経験が得られました。私は桜の国にて、冷涼な空気と、ありのままの日本の姿を直に知ることができました。目に映った街頭の光景はとても綺麗で、ごみひとつ落ちておらず、清潔が保たれていました。歩道には必ずと言っていいほど、（交差点に）交通信号機が設置されているので円滑	2024 年 1 月 24 日（Instagram） 日本テレビ報道局の脇にある会議室にて 1 時間半程、日本テレビについて視察・学習をしました。隣接商業施設から徒歩でたった 5 分の立地にありました。

な道路交通が保たれ、渋滞の発生が抑えられていました。日本の大学生との交流では、書道をはじめ日本文化を紹介されました。その後の夕刻に東京タワーを訪れました。しばらく待っていると、鮮やかにライトアップされた美しい東京タワーの姿が突如として浮かび上がりました。



Direktur Divisi Budaya, Pariwisata, dan Hubungan Internasional Provinsi Nagasaki Jepang Sakaguchi Ikuhiro mengatakan, majunya perkembangan provinsi ini sebagai bukti kebangkitan Nagasaki dari ketopunkutan usai dijatuhi bom atom oleh Amerika Serikat pada 9 Agustus 1945.

"Nagasaki menjadi target bom atom karena dulunya memiliki pusat perakitan kapal militer terbesar di Jepang. Tapi setelah mengalami kekalahan pasca perang dunia kedua, Jepang tidak lagi memproduksi kapal militer melainkan mengembangkan kapal kargo untuk perdagangan," katanya.

2024 年 1 月 26 日（新聞 Manado Post より、参加者の執筆した記事）

1 月 24 日、日本のジャーナリストであり、Bee Media 合同会社の代表社員である倉澤晴夫氏と直接話し合う機会がありました。倉沢氏は「日本人は、誤った情報も多いデジタルメディアと比べ、テレビやラジオ、新聞などの従来のメディアに対し、未だに大きな信頼を寄せています。日本のメディアは、いかなる干渉も受けずに、事実に基づいた情報と明確なデータを提示することで、常に国民の信頼を維持しようとしている」と語り、また、「JENESYS プログラムに参加しているすべてのジャーナリストが、責任を持ち、常に真実と平和を訴えるジャーナリストになることができる」とアドバイスをしました。

2024 年 1 月 27 日（SIND NEWS.COM より、参加者の執筆した記事）

長崎県庁を案内してくれた長崎県文化観光国際部の職員は、現在の長崎の発展は、1945 年 8 月 9 日に米国による原爆投下後の不況から立ち直った証拠であると述べました。

長崎県は、歴史的に諸外国との貿易において重要な役割を担ってきました。そのため長崎は外国人に寛容な市民として知られています。

「昔から長崎の人たちは、外国人との交流に慣れています。それこそが観光産業において資源となり得るのです」と県の職員は締めくくりました。

	
2024 年 1 月 29 日（iNews id より、参加者の執筆した記事） 「日本の小浜町で、美しい景色と温泉をお楽しみください」 小浜町は温泉が有名で、日本で最も熱い温泉と日本一長い足湯があります。 足湯の長さは 105m。この長さは、小浜温泉の源泉の温度 105 度にちなんでいます。 橘湾の防波堤の上に作られた海の露天風呂もあります。美しい海と夕日、温泉を同時に楽しむことができます。	2024 年 1 月 28 日（iNews YouTube 版より） 長崎市の原爆資料館についての報道。 1945 年にアメリカによって原子爆弾攻撃を受けた歴史のある長崎市にある原爆資料館では、原爆の被害を伝える写真が展示されています。

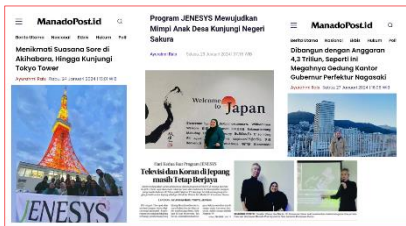
6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

グループ 1（訪問地：東京都、長崎県）全 1 グループが発表

JENESYS 2024

Young Journalist Exchange Program





【訪日中の学び】

- ・インフラ：交通インフラ（各公共交通機関の相互連携、歩道、道路の整備）が整っており、移動は容易になっています。先進技術の駆使により、利便性が確保されていました。
- ・文化財：歴史的、学術的に価値が高い文化財、建物が行政によって保護されていました。（出島）
- ・日本人：規則を遵守することが社会全体の秩序として浸透しています。日本の社会人は、職業倫理を守り、仕事の中で適切な行動をとることができます。
- ・美化：各種施設においては清掃が行き届いており、清潔な環境が保持されていました。一般的

に美化への意識が高く、持続性を鑑みた生活環境への配慮が行き届いています。

- ・ 地域社会：地域社会においては、子どもを犯罪から守るための自主的な活動が盛んであり、治安の維持に貢献していました。社会のルール、マナー、生活習慣に関する躰を、子どもの成長に合わせた方法で実践しています。

【テーマ（日本のマスメディアに対して感じること）に関する学び】

■ 日本のメディア：

- ・ 活字からデジタルへのマスメディア移行期の現在においても、日本では、新聞、TV、ラジオ、雑誌といった従来のメディアへの依存度、信頼度が依然として高いことを理解しました。
- ・ 日本のマスメディアにおいては、政治的中立、不偏不党の公平な立場が保たれています。

■ メディアの役割：

- ・ 災害発生時に担うべき役割があり、被災地でのラジオ放送は、他のマスメディアに比べ、被害状況に影響されずに放送を続けることができる重要な情報源となっています。
- ・ 中立であることの重要性を学びました。メディアは、時に権力の暴走の監視や抑止力となり、事実に基づいた報道を国民に対して行う等、ジャーナリストの担うべき役割はどの国においても、ほぼ同じであることを理解しました。

【アクション・プラン】

帰国後一週間以内に、参加者の所属先の各メディア（新聞社・テレビ放送局・デジタル放送局）を通じて各自行います。報道を通じ、日本で得た知見に基づいた見解をインドネシア国民全体、そして国際社会に対して広めたいと考えています。

- ・ 日本とインドネシアのジャーナリズムの比較
- ・ 日本の若者（学生）との文化交流の経験
- ・ 日本の少子化対策（子どもがいる世帯への手当支給等）について
- ・ ホームステイ（諫早市）で得られた経験、日本の一般家庭の日常生活について
- ・ 日本の観光地について
- ・ 長崎に投下された原爆の生存被爆者 語り部の逸話・体験談
- ・ 長崎県の被爆者への公的支援について（被爆者手帳所持による医療費免除等）
- ・ 長崎の復興、原爆投下から約 80 年が経過した長崎の現状など

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）